

わたしの考えた未来の新潟市は、今の緑や水を残したもっともっと自然あふれる新潟市です。

私の住んでいるここ新潟市も、福島潟をもつ豊栄をはじめ、新津、白根、小須戸、横越、亀田、岩室、西川、味方、潟東、月潟、中之口の十二の市町村との合併で、とても大きな都市となりました。そして、十月十日に巻町ともいっしょになりました。

ここ新潟市も東京のような大都市に成長しつつあります。しかし、大都市になるということは、今ある自然をつぶすということになりかねません。家などの建物をつくる時も木を切りたおして、そこに家を建てたり、田をうめたてて建てたりするというのが今は多いと思います。また、人口の増加により、生活はい水や工業の発達のため水がよごれていって、魚がすめなくなってしまうかもしれません。未来の新潟が自然あふれるままであり続けるため、木を植える運動や、水をよごさないための取り組みを、広くやってほしいと思います。

私たちは、十月の中旬に、六年生全員でトキメッセへ行って展望室にのぼり、新潟市をながめました。その高さは、ちょうどネクスト 21 のてっぺんと同じ百二十五メートルでした。その時、私は、新潟はいなかの方だと思っていたけれど、それとは逆に、立派な都市へと成長していることがよく分かりました。工業がさかんな地いきや、古町に並ぶデパートやビルがめだち、新潟が進化しているのが目で実感できました。上から見る古町は、まったくといっていいほど緑がなく、車が走り続けていました。工業地帯では、けむりがもくもく空にのぼり、にせものの雲ができていたみたいでした。

私は、この景色があたりまえじゃなくて、目の前には木が立っていて、どこでもきれいな水が流れていて、空気のすんでいる景色があたり前になってほしいです。

そのためには次のような活動が考えられます。

一人一人が木を植え、育てる運動に積極的に取り組む。

緑あふれて人の集まる場、公園をつくる。

福島潟のように豊かな自然あふれる場をこれからも大切に保護する。

家庭から出るゴミを減らす。リサイクルも心がける。

ゴミはきちんと持ち帰り、家で分別する。

生活はい水が川をよごすことを意識して、自然に優しい生活を心がける。

これらのことに、新潟市民一人一人が取り組み、緑あふれる、水のきれいな都市新潟づくりを進めていきたいです。